

福井大学学術協定校への派遣留学（交換留学）月例報告書（4・5月）

留学先：カセサート大学

氏名：土田郁子

早いもので月例報告書を書くのもこれで最後となりました。帰国日が近づいてきているので、今まで行きたかった所や行こうとしていた所へ積極的に出向くことにしました。

まず、夜になると数日間心臓に痛みを感じるようになっていたので病院へ行くことにしました。そこまで深刻な症状ではないように思えたのですが、保険金が下りるのをいいことに、新しい所を開拓する気分で行ってみました。保険会社に提案された病院はとても大きい国際病院で、日本語対応もしている使い勝手の良い病院でした。野菜ジュースと水が飲み放題で、中にはスタバも入っている病院とは思えない快適な空間で楽しく診察を受けてきました。結果は心臓周りの筋肉痛でした。最近トレーニングやダンスを始めたための症状だと思われる。何事もなくて良かったです。

四月の中旬に、水かけ祭りで有名なタイの正月”ソンクラン”がありました。実際当日になると、普段交通の多い道路は閑散としておりスムーズに都心部へ向かうことができました。ほとんどのタイ人は、日本の正月のように実家に帰って静かに過ごす人が多いようです。都心部も思ったより人がおらず、水を一回も被ることなく歩き回ることができました。ようやく水かけが解禁されている通りを見つけたので、人々が水をかけ合っている様子をしばらく高い所から眺めて満足して帰りました。大学内の一角でも水かけ祭りが行われていたので覗いてみたら、巨大な水噴射機から思いっきり水が放たれ、参加者は楽しそうにずぶ濡れになっていました。ちなみに、ソンクラン時は皆アロハシャツを着ていました。国を上げてのお祭り騒ぎみたいで、見ていて楽しかったです。

一週間ほどソンクランのおかげで大学が休みになるので、これを機に一人でシンガポールへ旅行に行きました。しかし夜中に出発する予定だったシンガポール行きの便がなかなか飛ばず、すでに疲れた状態で一日中シンガポールを歩き回りました。結果的に4時間遅延したのですが、この間に同じ便に乗っていたシンガポール在住のアメリカ人と仲良くなったので良かったです。シンガポールは東南アジアの気候でありながら、東南アジアっぽくない街の雰囲気でした。人工物と自然が隣り合いながらも清潔に整備されている美しい国で、永遠の発展途上国タイから出てきた身としてはずっと滞在したいと思えるような国でした。途中マレーシアに留学中の同期一人と合流して、場違いであることを承知しながらもシンガポールで有名なアフタヌーンティーを嗜んで来ました。

泣く泣くシンガポールからバンコクに帰ってきたら、期末テスト習慣が近くなっていました。四月五月は南国フルーツが美味しい時季で、マンゴー、ランブータン、マンゴスチンなどのフルーツを毎日食べながら日々乗り切っていました。期末テストの前にプレゼンを課す授業が多く、この時期が後期で一番しんどかったかもしれません。特に、難しい環境経済の授業でグループプレゼンが課せられ、フランス人留学生二人と私含む日本人留学生二

人でグループワークをすることになりました。授業内容もテーマも全く理解していなかったもので何をしていたかわからず、とりあえずメンバーがまとめたパートを見てから取りかかろうと思い、まとめパートを担いました。結果、とてもいいプレゼンが出来てしまいました。最初は個人プレーを好んでいたように見えたフランス人二人とも仲良くなれたので、この課題は嫌だったけれどやって良かったと思えました。

プレゼンを乗り越え、残り少ないタイ生活でやり残したことを消化しようと思い立ち、日本人学生数人を誘ってユッケとドリアンを食べに行きました。衛生環境が日本よりも安全ではないタイでユッケを食べるのはどうかと思いましたが、勧められたユッケの屋台は日本人の間でも人気と聞いていたので行ってみました。注文したユッケは、ビールとよく合い、ゴマ油とニンニクがきいていてとてもおいしかったです。お腹を壊すこともなく、いい経験をしました。ドリアンは別日に食べに行ったのですが、思ったより臭みは無くクリーミーで美味しかったです。タイで食べるフルーツはどれも珍しく、美味しいものばかりなので、帰国後にあまり食べられなくなると思うと残念です。

五月中旬、いよいよ期末テスト週間に差し掛かるもいまいちやる気が出ず、ルームメイトとピザデリバリーを毎日頼む日々を送っていました。テスト当日、どの教科も手ごたえはあったので成績表が届くのが楽しみです。

これにてカセサート大学への交換留学は終了しました。長いようでとても短い 9 か月強でした。滞在中、この留学で得たものは何なのか全く分からず度々悩むことがありましたが、帰ってきて人と話しているうちにコミュニケーション力や物の考え方で自分の成長している部分を感じることができました。滞在中はよく文句を言っていました、いざ帰国日にタクシーで空港へ向かっていると悲しさがこみ上げ思わず涙が出てきたので、最終的にこの留学生活は自分にとってかけがえのないものになっていたのだなと気づきました。



↑シンガポールのサルタン・モスク



↑マリーナベイサンズ